

信淨寺だより

97号 二〇二六年十月

三帰依（さんきえ）

今年八月に若院（住職の息子）が、得度^{とくど}をさせていただきました。得度とは僧侶になるということです。京都の西山別院の習礼所で十日間の習礼を受けて八月五日に得度式を受け度牒^{どちよう}をいただきました。度牒とは僧侶の証明書です。

僧侶にはならない人にも帰敬式というものがあります。本来は生前中に受けて法名をいただくものですが、多くの方は、生前中に間に合わず、葬儀の開始前に導師が行っています。葬儀に出られた人は、ご存じだと思います。その際に導師（住職）が剃刀をあてて行っていますが、その時のことばは、

『流転三界中 恩愛不能断 棄恩入無為 眞実報恩者』

『南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧』

その意味は、

「迷いの世界を輪廻している間は、恩愛を断ち切ることは難しい。しかし、それらを棄て、仏門に入るとは眞実に恩に報いる者と

なる。」 難しいことばかと思えます。後半は、

「仏に順います 仏の説かれた法に順います 仏の教えを受けさとりをめざす集団（僧伽^{さんが}）に順います」このことばを三帰依文といいます。世界中の仏教のどの宗派でも共通です。

迷いの世界にいる私たちは、悩み苦しむことが多いのですが、その悩みの原因である恩愛を断ち切ることは、なかなかできません。僧侶となった者であつても難しいことです。恩愛を断ち切り、さとりをめざす宗派もありますが、浄土真宗では、恩愛を断ち切ることは不可能であるとして宗祖親鸞聖人より世俗の皆と同じ生活の中で、阿弥陀如来の救いの力に頼って生活をしています。ですから僧侶である私も僧侶となられていない皆さんも往生・浄土の機会は同じなのです。ただ、その教えを伝えるという役割が、少し多いだけかと思えます。

得度させていただいて、これで何かが完了した訳ではないですが、阿弥陀如来の説かれた法を学んでいく一步となったと思います。私も僧侶となつて五十年近くなりますが、わからないことも

たくさんあります。まだまだ学びの途中です。僧侶でない皆さんも同じく学びの途中です。学びとは、かしこまって難しい書物を読むということだけではありません。一番大切なことは、「聞法」法を聞くということです。その機会は、報恩講や永代経法要にお参りいただいてご法話を聞くことです。三帰依を唱えて、僧伽の仲間になって法を聞く生活をするという姿勢を示していくのです。元は釈尊のお説法を聞くために集まった人たちを表しています。

住職も法を聞かせていただく仲間です。一緒に聞かせていただきます。お寺では是非、お待ちしております。

聞くということが大事なところ

「聞」というのは、衆生、仏願の生起しょうきほんまつ本末を聞きて疑心あることなし、これを聞というなり。『教行信証 信文類』

仏願の生起本末とは、仏が衆生救済の願をおこされた由来を「生起」といい、現にその願を成就して我々を救済しつつあることです。私たちのための願いを聞いていきましょう。

帰敬式のご案内…本願寺岐阜別院にて、帰敬式（おかみそりを受

け法名をいただく）が行われます。まだ受けられていない方は、是非いかがでしょうか。

日 時 十二月五日 午後六時執行（参集 午後五時三〇分）

帰敬式後、七時からの報恩講初夜法要にご参拝ください

費用 成人 一万四千元 未成年 八千元

申し込み締め切り 十月二十日までに信浄寺へお願いします。

信浄寺行事予定

報恩講 十二月十四日 午後二時 七時

十五日 午前十時 午後二時

その他の行事予定

岐阜別院報恩講 十二月四日より六日まで

本願寺報恩講 一月九日より十六日まで